

HP社がBromium社をM&A 新体制でPCセキュリティの向上を目指す!!

昨年、米国HP社は、マイクロVM(仮想パソコン)を活用したセキュリティソフト「Bromium(ブロミアム)」を開発した。Bromium社を買収した。そして、このほど製品名を「HP Sure Click Enterprise」とあらためて、発売することになった。そこにはどのような経緯があったのか。今後の展望とあわせて紹介したい。

マイクロVMを活用した 斬新なセキュリティシステム

一般的なセキュリティソフトのようにマルウェアやウイルスなどを検知・判定してブロックするのではなく、いったんマイクロVM(仮想パソコン)にすべてを取り込み、使用後に仮想パソコンごと削除するという超斬新なソフト「Bromium(ブロミアム)」。本誌でもたびたびその特徴は紹介してきたが、そのセキュリティレベルは世界中で高く評価されており、米国でも国防総省や金融機関など数多くの企業・団体に採用されている。

このセキュリティソフトがここに来て、さらに大きく販路を広げようとしている。2019年にHP社(企業概要はカコミ

記事を参照)がこのソフトを開発したBromium社(米国)を買収し、このほど製品名を「HP Sure Click Enterprise」とあらため、発売することになったのだ。

だが、これはけっして唐突な話ではない。実はHPとBromium社は以前から協業関係にあったという。「当社はもともとBromium社と長年にわたって取引をしており、その技術力を高く評価していた。そして、2年ほど前から同社のセキュリティシステムの一部の機能を『HP Sure Click』という名称で自社のパソコンにプリインストールし、無償で提供してきた。多くの特許技術が盛り込まれており、これ以上のものはないと専門家、ユーザーからも高い評価を受けてきた」

と日本HPクライアントソリューション本部の三浦郁也氏は話す。日本HPは2019年夏には外資系メーカーとして初めて日本国内のブランド別PCシェアで首位を獲得しているが、その背景には日野工場(東京都日野市)での国内生産を軸とする流通戦略やデザイン性の向上といった要因だけでなく、こうしたセキュリティシステムの充実もあつたのだろう。

ともあれ、こうしてHP社は昨年、セキュリティ分野にさがるなる投資を行い、エンドポイントデバイス(PC)のセキュリティを強化するためにBromium社を買収。今後の日本市場の開拓については「Bromium社時代から営業を担っていた(株)ブロード(東京都千代田区)と緊密な連携を

HPの歴史

1939年、スタンフォード大学で同級生だったビル・ヒューレットとデイブ・パッカーがHewlett-Packard Companyを創業。オーディオ発振器の開発にはじまり、1966年にはHP研究所を設立し、HP初のコンピューターを開発。1968年には世界初の卓上計算機「HP9100A」、1984年には世界で初めてサーマルインクジェット・テクノロジーを搭載した個人用プリンターを発表し、PCとプリンティング事業に本格参入。2015年にエンタープライズ事業と分社し、HP Inc./日本HPがPC・プリンティング事業を承継。2019年には外資系メーカーとして初めて日本国内のブランド別PCシェアで首位を獲得した。

とりながら販路を開拓していき「たい」としている。そして、それを受けてブロードの沼田貴寿営業本部長は「HPという世界トップクラスの企業と連携することになったので、これまで以上に日本国内の自治体や企業にこのセキュリティソフトの優位

性を伝えていきたい」と意気込んでいる。

コロナ禍で急増した
テレワークの
セキュリティを万全にする
とついで、この「HP Sure Click Enterprise」・コロナ禍で



米国連邦 政府機関

をはじめ、世界の重要な
公的機関・有名企業を含む
400社以上が採用!!



添付ファイルを 開く時の不安は これで解消!!

ウイルスを完全隔離[※]

従来とは全く異なる発想のセキュリティツール



HP Sure Click Enterprise

powered by
Br Bromium



世界の
主要銀行



米国
主要小売業



世界の
中央政府



米国
最大級企業



防衛機関
法執行機関

※2013年以降、HP Sure Click Enterpriseは推計20億以上のMicroVMが実行されましたが、侵害報告件数はゼロです。(米国HP社調べ)

詳細は [BROAD Security Square] で

bs-square.jp/columbus

株式会社ブロード

〒100-0014

東京都千代田区永田町1-11-30

サウスヒル永田町7F

TEL: 03-6205-7463 (代表)



日本HPの三浦氏



ブロードの沼田営業本部長

テレワークが普及しつつある今日にあって、ますますその活躍が期待されている。テレワークで従業員がセキュリティ対策が

不十分なPCを使い、そのPCがウイルスなどに感染してしまうと、今度は会社のネットワークまで汚染されてしまい、機密情報や個人情報などが流出してしまうといったリスクが生じるからだ。とくに最近ではガードが強化なサーバーよりも個人が使用しているPCが狙われる傾向があり、ますますもってエンドポイントにあたるPCのセキュリティレベルの向上が求められている。

しかし、だからといってセキュリティソフトですべてのウイルスを駆除するのは難しい。実際、「新種のウイルスは驚異的なスピードで増えているし、そのスピードはますます加速していく可能性がある。そうなる」と、従来の「ウイルスを侵入させないこと」に重きを置いてセキュリティソフトでは到底、太刀打ちができない」と前出の沼田営業本部長は話す。だが、「HP Sure Click Enterprise」を導入すれば、そういったイタチごっこに巻き込まれることなく、PCの安全性を簡単に担保することができると。当然、このセキュリティソフトであれば、かつて世界中で猛威を振るったランサムウェア「WannaCry(ワナクライ)」（身代金要求型のマルウェア）などのリスクにもシッカリと対応できるという。「HP Sure Click Enterprise」を搭載すれば、すべての作業を本体と隔離したマイクロVMのなかで行うことができるので、どのようなウイルスが猛威を振るっても本体には一切影響がおよばな

い。まさにそのつど、クリーンなPCで作業をしているような感じだ」と沼田営業本部長は胸を張る。

この使い勝手の良さを実感してもらうために日本HPでは、無償版の「HP Sure Click」と有償版の「HP Sure Click Enterprise」を市場投入しているが、両者にはどのような違いがあるのだろうか。その点について、前出の三浦氏は「無償版だとアプリケーションによって、データの閲覧しかできないが、有償版だと編集や保存といった操作もできるようになる。まずは無償版でそのセキュリティ機能を確認していただき、納得いただけたら有償版にグレードアップしてもらいたい」と話す。

さらに、日本HPではコロナ禍への対応として、あらたに「HP Sure Click pro」というソフトもリリース。「無償版にプラスアルファの機能を搭載したもので、9月末まで期間限定で無償提供する。こうした取り組みを通じて、エンドポイントをシッカリと守っていきたい」と三浦氏は力を込める。

PCにおけるサイバーセキュリティの重要性が強調されるなか、世界トップクラスのPCメーカーであるHPがこのセキュリティソフトを手中にした意味は大きい。これを機にサイバーセキュリティ対策に関心のある向きは、HPのPCの購入や「HP Sure Click Enterprise」をはじめとしたセキュリティソフトの導入を検討してみてもどうか。

